

平成 29 年度

第 2 回教育課程編成委員会 議事録

## 平成 29 年度 第 2 回 教育課程編成委員会議事録

日時：平成 30 年 4 月 20 日（金）19：00～19：50

場所：長崎医療技術専門学校 本館 1 階 会議室

1. 開会 教育課程編成委員会規定第 6 条に規定される出席者数を満たしているため、本会は成立する

2. 教育方法の工夫について・意見交換

・教育効果を上げるための工夫とは

→文部科学省から指令が出ていることだが、アクティブラーニングや グループワークなどを強く推奨している。

→教育評価を単純な試験だけではなくポートフォリオのような、学生がどこまで学習したかを頻繁にチェックするようなやりかたを強く推奨している

・実習レポートの形について実践的な形に変えていくとの事であったが、それについて学生自身の取り組み方などに変化はあったか

→現在取り組み中であり、まだ効果判定には至っていない

・アクティブラーニングだけの場合、どうしても活動が重視されてしまい学びが深まらないという問題があるため、教員も勉強しながらディープラーニングなどへの理解を深めていかなければならない

・2 年生が 1 年生に教えるというような場があると、人に教えることで自分の知識が整理されて深まる

→実習に関連する実技や求められるスキルについては、上級生が下級生に指導する場は設けている。今後基礎学習の中でも検討したい

・単純に最終的な合格率だけでみるだけでなく、個々の教授内容でどれくらいの効果が出ているかを重視すべき

・理学療法士や作業療法士になったらどんな良いことがあるのか最終ゴールの夢みたいなことを持たせない限りはやる気は出てこない。厳しさだけではなくいいことも伝えていき夢を持たせることも大切である。

・アクティブラーニングの中の 1 つであるジグソーラーニングは、グループで 1 つの課題を学習させたあと、別なグループで自分が得た知識を説明することをさせる。他人の勉強方法を知る機会にもつながる

・1 年時に必要性が理解できなくても、3 年時の実習で気づくことが多い。先ず実習という経験を踏んだうえ学習できる機会があればよいと思う

→1 年時の実習を後期ではなく入学後、早い段階で入れていくという事をもう一度教務でも検討事項してみたい

3. 閉会